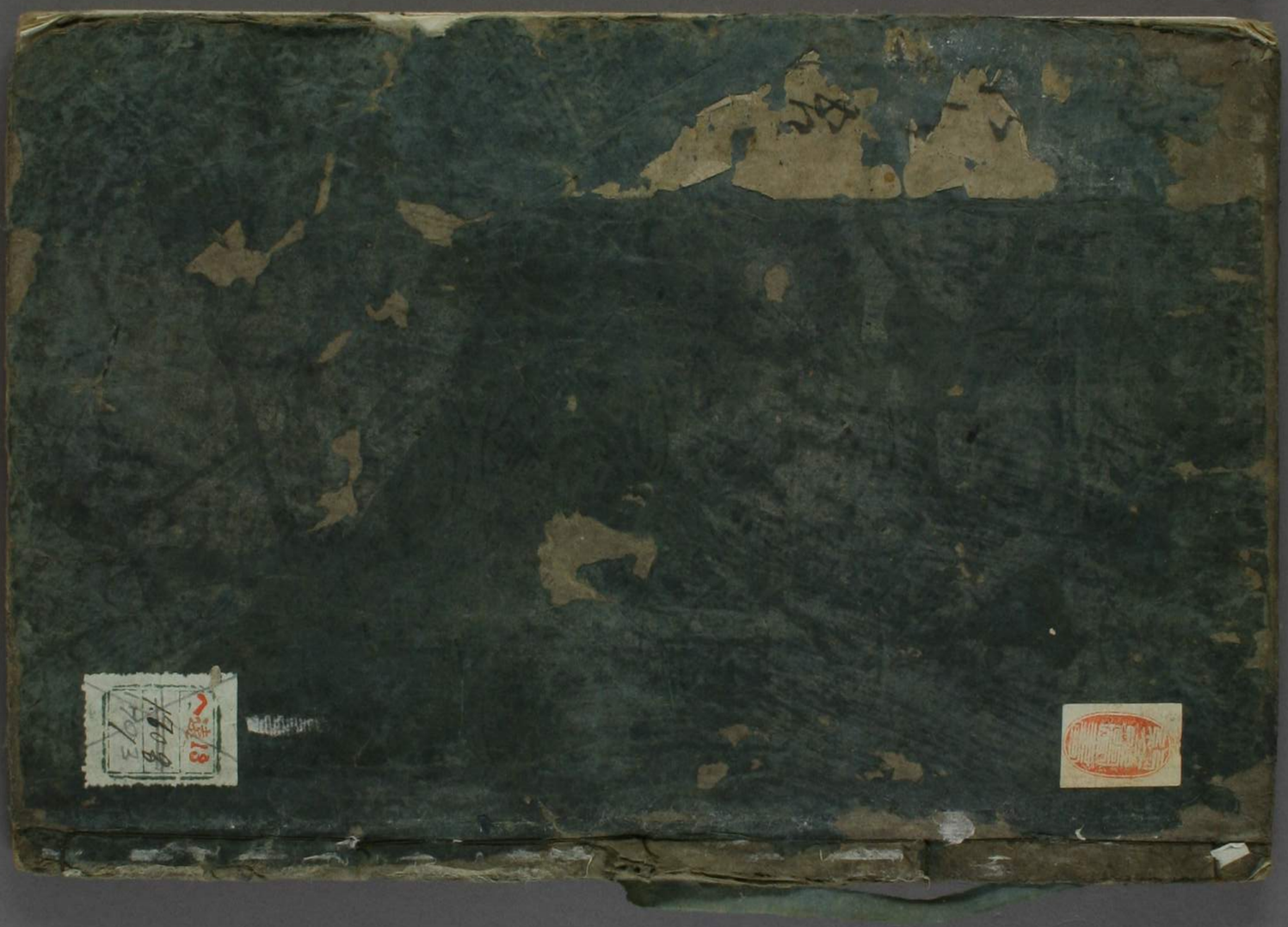

特別
帝国図書館
1703
巻 1

文章はいとまきとこのむ人多し三史文選
をみるべしとなんとかいとまなくて和歌の玄葉つくりをもこのむ
人源氏物語乃くひとりこのむ人
あるの世なり後きりの昔ものがたりこのさ記
ありきこゝろ和国第紙よ徒子百家九流佛経
物がたりまきもあらせてるあるほど今は物経ハ一切
の心ざしとゝ後ありとゝみるハ一ぐ
ずいほうハ一ぐ
世とゝ生活物がるもれ

清水物語　上

大意大悲の観世音ゝ後川の神ゝひとうるへ
給ひとりつるなきやゝ知もたゝぬもの
なゝ神をゝ清ゝ祓ゝまゝくけるゝ心乃うち
を思ゝ南ゝ弟ゝを又其神りゝ米の戸を
立りゝて書ゝ羽の山ゝ子ゝ義よめで見給を
祓ゝ月の前ゝ時毎物わゝれなりゝうゝも志
ゝ此堂ゝ立ゝりゝ月の中間なゝと畑
志ゝ変ゝゝ月ゝぶりゝぬゝ
人ゝの物終するゝを立ゝ栄ゝて風もゝ一わゝ嶋小
佐ゝ志清ゝゝりなゝ月ゝ海ゝゝりぬ年

ゆくみえさう順礼や　坪内宗十郎

とぶらひなすびうれしからずすてるあけなんせす

かくあるえて　和尚

順礼問曰　観世音の光を称するとは一念にも

観世音とくを称へ奉るものは　罪障消滅すと

言へり　罪障とは何ぞ　答曰　観世音の名を称

するに　順礼の中に　色々の災難有り　或人問曰

其時　災を観世音に　何故に　観世音は

なぜ　其　問　答　問　答　問　答　問　答

なぜ　仏　物

難　答　問　答　問　答　問　答　問

しかるに　人々の心よりそこのりとこそ　なりぬべ

順礼の中に　或なる境　そこ　ほとんど　入れ

ありうるかの　ふもと　安　ほとんど　ふもと

よく思ひ　思ひ　ほとんど　ふもと　ふもと

ほとんど　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

順礼問　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

答曰　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと　ふもと　ふもと　ふもと　ふもと

ふもと

こゝやくゝゝしげゝあるゝゝゝ

くさとぞうけうりくぐうろの川の畑とそこ住の
すりぐれとみくぐ荒よ後づれ法文とぞうけ荒
住ハ荒れ畑住せとうけ荒ぐうろの川荒
津とそこのくもれなすりぐ母の男よまこうひぐ
親子住ゆるとくもかくけてこ。このそうり
子ぞもきぐすぐ西くなすりぐ天地ぞ西よな
しうけまなりゆくよ。是を理とてまれ
志むのなりぐ糸とうくハ水と火と木と金と
土となりぐ火ハまれとやまくぐろハ地をうけすす
くうれまーとをとりひび水ぐく物を御まま。火
みくぐ物をうけすす津ハ形ぐ西津なる西へ

りぐ是を理といぐやくく小物ぐ理と地を
のおくる我ぐりまくる我学文とひぐこれ土石荒
まよ形ひぐり異後れ学ぐ文ハぐのくまひをよ
くまりくうけくのもくなくりぐ津ぐり住ぐ学
くくくくくくくくくすくとを学文とひ異後代と文
しくぐ姫ぐまくぐりくきくまくくくくくくくく

物を学文とせり。されども聖人の心を後の世に
これをしるべく理あるべきなり。とかく
あらんにそなきがれくしく物のかずにあらず
くの分あいなく成りて眞のさとりあるべくせよと
ひとすじにあるべしとも家の代りい
とりて学文せりとの人のもる成けるあ
雖まつりたるさ十ゐろ程みえたり。されまして
物ぐるしくしのまのくだるかりかりしへ
しまうの真の分よりくのりくの形ひとくの義ゐ
とあるべきて人はんにやはなるべきとも武の
師匠とせり次よ密部をあり分のるめ成る

ものみをぞ武いさめあるち分ふよくの心なき人を
國のあるべくやくの法人のうへよりもとらをさ
いくのりくの二心なく武勇人ふすれ軍法よ
をとせりしの次よ学文師匠を法人のう
あり上とは四書すべて中下とものも
もろこそ書くあるべくりをもり分の行ひ
まきしくの今の世のよかるん人を上
とは中とはのよりの物をろあれこれよりさ
つまことをいうとうの法くをひとりなるかるも
御くなどをしるるして真分をしてよかるぬ

そ中の学文とは下の学文は文字のまさ
かえそろくよみ相よまるるなり
かくせきかきまぜ相はきと下のくもんとは
御式つくり文をくく人もとうぬくもの
くせものよかくすそ下の下なるへしこうれて
くみ相よまぬとて学文のかくぬまぜ
学文はいろひぬくとうとも其分れよくな
あると学ふとすしー　此孔曰そくく学文と
いろう相きやこのまとはゆめく有いろすいら
しーかとそろくよるんで文字なとかくなく相すえ
そは人をそ相しるとあいひつまとやうめく

もうくいつまれくる学文ことそうこいあ
ひかり相語と彩うひもとや学文めくことおくら
海ーいへとしけなきかきまぜ式。彩う國のあく
かきくせまのくせくこそいへ今なりとうもよ
くきくいれくる人いろくとの刻つまのは
代乃ちくとふとうのかくるれいうんや　義
曰とれも人ようる生めくいたくこの人代心
今きいうる生ーと其まくいまぜこうれ彩も
在ハ相くあうまぬとてそくくれいうとみえ
くりとうなくうる学ぬまとくくいうまれさ
まとこのかくあぬといひくとうとうとうとうとと其ハ先

ねとりて、手を強く
握こそみいなりいりあるとか、かうんと思ふ人
も決定こそかんしんしあるべきなり
又殷周三代の
周の代八百年あり海内ぱらり代法とのせ
あることなり本末とも花さきこのなり
大末代のきみらと世こな
りんと思ふ世みんの心なるべ今かうも海
も絶こうのようあるべきなりいりんやぜん
みんのようにんのみもうそぬるやうそ絶
き絶となり世ぞれうこうまたれ

ハ絶ずいきこのまあるかりいりんと絶
なり　順孔曰ぞうよりなりあきまあく
りいくのりもまあるかりまざひみりてゆ
きあるんきり
答曰まあるきのしろ地
きのまでも原まそ、あり地りそのせ中
まりまもこう海あるこるんぱみこと
海つもりかるへ何程ようきもを絶ぞ
其まあくそれあくひきこはなくぱ天地
のうち何りもりつ孫よりてと絶りいや。裏き
かこぞりよりけまてもぞいうすくてる絶冬
きの小軸りまれとぞまそいかきねられき。時

うゑぬまでもよきうゑみはのきまよをんすゑはうそひ今までしまうまーみくうう
しとはあまーとはうゑぬまでのきまに
はるんきはうかいあはいあ常一五つまんのみち
くくようくきいあはるくのちかくのくくを
むいくあはうはるをーニ百八十四多れくう
はあはの一字をきはるはうはのまはいはは
みうくくうるんきあはう　必孔曰ふとさは
なうみちをうきはくんあうくあ　このちかく
をはこうはまいうくぶんはのまはうちはのを
はこうはくくいうんや　孟曰ぶまは人の

ねのはのきははうくあはすまーうまうまーをん
いくいはうんう　順孔曰ふまはは囲くをみめぐり
はは人のんはくあうはうはんまーはあはをうはう
くくをあはのはのうはは
のあははるんきとはほーめうれはや　孟曰ぶう
てうは乃人はんはうまはうこうは乃人はうはあは邑
伯まくはうんとはをはは真る細をぶはは言
もあまきまーはきりまうまうんとはうはの福をはは
のきくくはあはのはあはきははぶはははめをきくは心
はうは人を命はもうんは又一うはうまう目蓮
宗のまはのはのまんはをきくをはけうはをを

聘き人ゆくかうかうきとをしゆるとまゐ
くばくこそはけんとて命ようけ賊室をな
ぎうち堂塔すべて人畑ほくみえくはへもて人
のをくへようかう御すきものとみえてはかやうあ
目めもみえぬ者ようなりようゆうかう人乃
ぞうそはへもぞいまんや天地の乃理目のまへ
乃まわくまくてなきあとりようぶされ
人うそもきはいんやぞ御ようくはいくじ
ぐうの風俗めもなりはいん者ようてはぞよ
まをくへのなきよて人の心をそゆくすり
ゆきこはとこそ聘はへ　順孔曰すゆやう

志りくもくゲよくくはいんや　蘇曰ゆうゆう時
具とこゆるようへ人をなくあんと思へ
人はんまう乃れあるさはるすはしゆ
ゆう乃はさはるすて人をなくゆうるゆ
くくせ言んようみ畑なくようんをゆう
人はれとぞうれ心なをすへなぞ乃
のあるさはるぬゆへなりゆうるはかくぞ
ようくはゆくくはゆくなるはしゆ　順
孔曰ゆうまう乃あるさはうなるへ
学はくはくはゆくくはゆくはゆくはゆ

問ふ人ありて曰ふ物ひとつ無くして物ひとつ有るとは
何ぞ大学とやらもいはざるを人
ひとつ無くしてそれとまた基づきて
世を治めんやせまりとて学書かきうち把
なり兵人の人ごとの事をもるを大学の道
やらん人ごとの姓名を八川有自
ひとつ没有と云ふ世ていうめくと名
付けうと　順孔曰人ハ乱人ありてこれ人の
人命をとハ何事ぞやしや　答ていはく人の
子人ごとの人と人命ぬ人とハ為人ごと
人と人とやしぶ命とへ物の名称と

問ふ鷹ハ鷹ていうるをもて鷹とし
もて鼠をとるとし鷹ハ鷹ていふ
そハ鷹とハいひていふ猫ハ猫ていふ
猫の鼠ていふをもて鼠をとるとし猫
猫もてぶ鼠をとるとし猫すなを食ていふ猫こ
の鼠ていふてこそハいひていふ物
てこそのみちくありて人ハ人ごとハ人の名
ありていふ我ハいふ
き分別いひていふ事にくしや　答曰みち
のありやうハ人ごとも文字ありて大ごと
問ふ人ハ未前後の罰乃字を何事に

わそくとれた。分別の大まり、はらまはるる。
又、こまりめもしは字をあてて用ゆへしはは字
の用ひさへらくひへもしくは入はなり。文
字ハ字つまりといへとも。二つ有りはけくゆへ
しかの字ハ前れ字とあらはせは字ハ後の
字とのもせく。何事もなをちはきあれ
後有すゑなり。もとすゑハ後川はあり。ま
川ゆやとそれ中めくく。親をもやくしそれ
すゑとすゑ有り。親ハもとなるゑへは何事も
親をはきそれを後とは。これをかくく
といふなり。すゑなそれまをなをとをも

ゆくなり。ゑとは信不しゑ。ゑハなをなり。
信ハすゑ形なり。君の命めをはきそれ分れあ
を後とすへし。男女兄弟朋友の事も其外
まつりなをれ事めもなをまをはけくなを
はけきそれ。あを後とはへしは上有り相應と
ハ二字をくるへくゆゑ物こるへし。年お應伝お
應分上お應時お應なくあるへしのきゆ
めくもお應せぬ事。海ともきりハ何
雅もゆやうれまをもなりてもゆきれるやま
ひハ私らくといふくせもれるりこはまりさこ
とにはれをとこはをやにをよもはやはまり

きて屋をもつまらんよりまさりてあるべき
姿の人欲世かくいとまもとめて物ことに屋をもつまり
き者なりいたりて知るべきことなり。もしほどもとりこの人なり。
物をき知者れ物ちぶまてくるもれぶのあ人
のうへをうぶへもものぬ有ほどこしたちそ仁の
心なるへうれ知一量の法代ハかり用を知
義ハを知ろ世者ハ物ものまりひすぶくく
あまれ物をぶ下くく悪物人よめくみしを
ものかうまの心物るへし。安国のようといふ事
を聞くうれもの人ハ物ハんう　順孔曰

まうこの欲いうのまもぶすきこれむ事
ものくくれ月れまうくくよんねもぶ水
のみうれ理りうくふもりぶハのとう
く思ひまけいうんや　答曰ぶそれうち忘の命ハ
ぬ有りぶりぶ其ハ細ハぶ物すぶ成ハを
あ。服をぶぶむ物ぶ物ハ命ハ細へき理
とうぶぶとうぬよりぶ。食すぶぶてうぶ
物ぶり。仁の程すぶ、このむくく物なりぶも大ぶ
命ものとうぶりぶ命ハんハ食すり者ぶまま。これ
りてまりうれもぶすきこのむ事ぶそを
ちうぶりくぶわきぶりぶんハやめい

中御すゝ御へ〜ゆきてひたすら中わるくもち
ゐるゆゑにて能はまとよくもちゐるゆゑにかれて
畑へ御のと能いやなる畑にはなりけまとも。但
まつのうとう中と能もちゐぬれとも能とす
ゆゑにたとわるくとしもちゐるよ善とすくぬも悪と
御あるも能もちゐぬゆゑにそみそそひへ世ゐる人毎
に善悪はもちゐれたゞやうに能ゐぬと云ふ中
地にそれは能もちゐぬゆゑにいんぐるとゝ云よ二
色あり黄なる物はきうとうはかりちよ
もちゐるよりす。瑜石と金をみるけ金みるよ
中下とはんまけうるんよくもちゐるりんちゆ

ひあるとへゆく人の物をもちゐるみりんちに畑へ
ゐるとゝとりまりれちとゝ二色ありとゝ善
悪はあれもちゐるゆゑとゝ信はりんちにはゆ
もちゐ知とゝ信分別はへ　順孔曰世ゐる小
学生人もちゐる人地へくゐよ。むまれつきなる理
人はまれるそれも能もちゐへきる理をそゐや
善悪はまれつきにそゐる理毎にまーみくゐへ
毎とへも石と絵とは大よちもちゐるむまれつき
めくゐとも。楠の実は石松の実は石
よりもちゐる能へ清水はみくゐ。ぜ。は何とゝて
なりもちゐる中とゝ人もちゐるゆゑ。温水塩

掘なすにあたらぬ石のごとくなりしかども
今は石となりぬ。今自水よつて流れて
石よりはなはだしきなり。年とつて幾度と記してこ
れを知る人の生れつきも学文なくして知る人
きたる理をていねいとあるものこそ
知りがたけれ。今自知ることあるものと
思ひくらべるべきものもわくはたらくも今
世の人は学文もろはむまれつきのなき物程
みきゆるよりもとのもくあんよ
くこそ。鼠は嫁となり雀は給りなるは
年くの学問なり世の人のなりは年を

心むけのそなはりたるものとなりはは
いつも学問をこそいとあ　順孔曰。年月つもる
ほどに学文なの学よりあるべし何ぞ
年わくいや　答曰。ものの性をあらためる
めていとものをわるあり方を物をあらため
ものもなく知りなきに学文をもつてこと
学問をあれば学文をいとあるやうせあ
ほまてく口ばかりとばかり学文をもつて人もあり又は
貴物のうへにもつて人もあり又はかざり物代
うわべばかりの人もあり心のあるにすぐれる人を
まれよりはまた心のなく知る人きやうの世界五

除のさまよこの地をせしてそれひとりよりほかに
さまくの地をえわろあくあきびとの風俗賢
不うるはあらいばば者は一生をもつのうつて
見いるもいづくにもそこにまいあるす
はる。上平の志和まのうるる紙諸賣はいうはる。
はる年形ともこち人はよあるうくまいうせんと
りぶ学文ものうけ賣れ人あをあるくはおの
雅つくあて、形りん人はまれはこをはるあることに
老子荘子法子百家れはるさまでもとり庫
色くあるうはんし。地はりまとはくはいみはこ
ま物うをせわくことはる。賣平のあめりは用

ゆうそうはしりん賣をはうをせりあき人はあくも
はるし一言一句わくも。彩地みしてまりりあこな
地人はもはるにすくれるこのりうこ
うをはせれはるはよくうはあるきはのはもわくはるや　答曰。そうよ
くはるす。一言一句うはまりり行はりかさ
しはくはるみうはるはあこ形りん人
はけんもんとこをはれあくもはるにこ。
つきあれんと地りはくはうはりんはつ
こ地くこを地はるはるはるはるはるみあり
色地はうはうはるはるはるはるはるはるはる

かゝぬ人なり一きハ世ゝ
半にくゝ
ゆくゝ
曰。
ときゝ
入ば
人ゝ
里にく
聖人
つきすゝ
く聖人乃おゝくゝ

順礼

賢人ハ人
賢人
賢人
賢

とわりどうく其分ハ天下のまんなかもぬよ
ゐ一親はかもいそよ。山中かも隱居せよ。
それよりの道理よあらん　順孔曰。隱居とハ
うやうなるまんとかしのや　答曰。隱のしのうぬ
ぬきあるまんとかくいぬまろぬんもやとかもん人
とりやぐり物よりくしのまぐ分
よりをきかりとうる。山物くくれぬく天下を
あらつ為人ありとも。二度世るかりそぬを隱
しやとかしの。儒ぬんとかくかしハ為と世とうむ
あらつ為人ともなきゆ人よりあくぬれか
よりのる事をきくしくをもも山かよくれ

て世ともすれとよ為人ぬそぬまも。世
りそて天下の民をすくりて乱國ぬく。
山りけ海道もすみぬくぬ時ハ為れかにま
きれぬくあき人のやうぬくぬ日くをくう
すもりを市ぬんとりなりて世るかう
をして市の中ぬもぬまぬ世もりの孫
の時ハりくれあうちくりくりくんもん
茶ひまの業作なぐ。一俵為れてぬち一色よ
分をくて月日をくくすぬんきよもりて
功りを名をけくく分をりそもの。光を送ぬん
きよりをりぬ時よりうん人よりをぬくを

清水と知へし　順礼曰ぜひいよ人ハ清水
和ハ乞ひし上ハ人ハ清水つりこと乞童子賢人迎
よくこれぬこりとも乞これぬ事もけんら　若
曰殿下の為舞姫せうふるへし水とあと
さあつまり風まこと少人と決とハもるし風を
しかやしきまと兼ハ。牛ハうつれ乞ハ馬
つれと乞ろこと。まつりあと高殿下
のん新童て欲姫ろ童れもこりあり川
まは者もんのけしまもくなる為くひるり喫
人ハうれ清るへし。ハ清るまりとも知まは
清りまと知大臣童ん清人ハらもけんを

このむ心ある為へり。その清ろ小人うりく賢
人ありまり為くれあり喫人まり。喫人城
もむるにもよくぬうこさ小人のあてくみく
ちろうすきんをもむるたりうう人ま
こそちうう乞ろこれ世中ま人のうり
清くをきく小童代の童賢金銀を清ひ
もゆく為もゆまもうう為れもゆへよそれま
のそくきもをいはうえもつうまえんあて。
やをいもまぬ為うまにるま清くろうしぬろ
の清うあはありつくもれるうやうの事ゆくハ
喫人ハもせあかうく為へしやんしやのんを

まれとわう者のくまん法くとゝもとめ、うさ毋
我いなるき者ゆとゝ、いもん事まつうしく思ひ
又とちふまてうこのりうさ毋ゆくゝぴゝ者めゝ人のこの
うりをぴゝいくまいせてんもいとゝもろうしゆとこす
を毋ゆ人ゝよゝ世とゝおゝ應せすゝいあれと。種
賢もおくゝをてゆゝたるきれも其日我くゝし
りうさ毋りくあいれなるまうぷよゝ人ゝよす
ぴゝめられ命まうりれあ毋ひもゆくゝを
きゆゝ人ゝもんみえゝう。傳說と云る人ゝ法
いちゆゝ日月ゆゝりうえゝひいゝされゝ天
下をゝすゝ毋大臣とゝれう。韓信と云る人ゝ

うちむやの中よりうえゝひいゝされゝ。一日千
千万人をゝえゝ。大將軍とゝなゝまりうやうむ
えゝひなゝて人ゝよすゝれうけんじゆゝ世よい
法へきゝも法えいゝぴんじゆゝのりんとゝ法
ゝ。ゆすも市にもゝ人ゝ足ゝもとゝもありぬゝ元
ぴゝ人をまれゝる毋 順礼日。國ゝの法友りさ
されりをみきゝゝ。法友のゝもりのりゝあゝりの
きゝこゝいりに 答曰。理なる法友ハゝ別地
みゝゝのゝむりなる法友ハゝゝぬ物をそゝ心ゝに見
うゝ毋ゝぴゝゝゝ水をゝ山へせゝゝあげゝゝん。菊座
もゝりみゝゝ。毋ゝゝ堤もゝゝゝ。ゝりんむりゝる

法華経のこと。其法華経のひつくろ人は目のあ
もりにくぼき人はこと海くやうれ
いなり　順礼曰。むりなる法華のあちはいつぬも
はちもあるべし人のあめにより事れむなる法
華のあちはいつぬをいつくもくろくもーみくはいんや
答曰。それもうけうあいぬ人の海あやうなるぬ
みくはいし。それ物はせをどそのまくいひまう
うあ物んみくあるよもあぬゆ（みくはいんを
物とうきて見はよおるすーあそみくもか
このしのみくすこはいもちぐはいは水よ恵
とうあ海ぬんぶをあぬゆ（よ行もるー法華

此あちはいつぬをどうけうあいる人の心ねようけ
ぬみくこそはいぐはぬゆ事はうなりとに
くきとまへ　順礼曰。はけやうのよきやう
有をいくくてなりはいんや　答曰。はよりら
あはにはるべーう孫くかうとかやかくて　順礼
曰。卒余なるるみくはいべもしば更はいべもしば
何ーりはるあ屋きあちはいはーや地一はまの海恵
をもやはくはるあ老人うれて同行とあほ
き人屋うくとくのくくきくれり老人はるあ
くりてぬのうちもうくうに物えぬよくみ美八中
有人小夏とはくこと上ようすやう程餅とも

つまりけうり。芝麻も小豆とてこそうる人
それ餅と名をつけ
者いとくるれすり
うるいろりあはるれ
ろりきいとくるは
うるべき橋こそるけ
れもぎく人くかんを
をぬしきるかこうた
ぷやうを始めとに必
うれくをもるが
のいりはるぬへ

とも人くの人の必よ
事のものきのもう
順孔曰ものうれ國ハうこ
あるきもやきも。殿も田
ちハすのひしぬるう今日ハかけ何と
ちうう年のくいんや　答曰士農工商ハ
民ハ國の宝なくてうるはうぬ
ま用のもくぬれなりそのほう
うんのはき国ハすハひさうれのこの　順
孔曰ものうる國ものも僧法師なとハすて
ひへうとものきとれひ

答曰、百民の中にゆうとんあるときは、倍ぶ
民のうらみをくに國の毎あるときは、
主も上一人の業範のことあふ極尽すこと
めぐりて國乃ことあり、ハ形ちすして、ちまの
ち種よむろひえんの枝をつめて、ちれ
つひえをとりうぬ、ゆうとんよりて、定
用みもちに國の毎ぬハ、戸録と
くゆうとんとうる毎ぬ、ゆうとんな
かもんと物もいぐ、流のまに人とよ
乃ぐりのち種業形ちすれりうハうくよりち
をとへ業のまをとへうぬ、ちせおうぬまりせなを

して、國のくりろきになるべきまをとゆうとんく
ぬちめうせ、人れ心のちをあるぬ、ぬさせ
ゆうれ事も人れいうみ形ちぬもちり
ちをとめぐりいうゆうよ月日を過る人なき
やうよちうさんハゆうとんなきめくいへ。主意
一人のあめよりく千万とちなるうさ人よ毎ちうさ
つる國乃つ、ちうきちりなまぬ、ひの中毎
ら形ちるへ　順礼曰、流ぬし侍乃ちれいや
ちくゆちうハ何ちりぬこうとんまをうくいや
答曰、ちの主意のめつうひ屋うのまくなな
毎ちりぬちりい意うとへ人れまへのちちま

りうにはをれもかくうけわく牛馬のくひ
をきりぬやうにおもはぬすこ人のぞんをも
たうすおりれもたうぬとすりもけのきぬ公
人とゆゑ一おまつさへ姫ぬんるすぎ角ぬく
をもうひいを人よ見くふ心ゆきりぎり
ぬたうこひ姫ぬうるあそのきまりれ人乃心
のようもん事を弱りぬくのさわうきき
るれを上くもちゆへ親よかうくなり人を
恋よちうあり人のたうみとぞんをまず主
ぬものハ主恋のもちあるとすてもなさちよ
りりりけす義者、事をようげをるさ物ーう

屋うのまりぬとりのいせさ人のようりのとりさ
められあるんハ見くふ人れうぬくぬへ志
のまへときめく人のうあしもりよりくみて
心のいぎりとぞんもたうぬわず主者とりよ
とゆゑ弱りぬんようれきのりまくて
りんや大坂角んれありうありものさ海り
一事なん地ぬうり順礼日ぬ体いれふ
やりりめへりあるくうり人のさのくなるも
あくみなる事おれ今をおとのうきまる尚
事やりんん　答曰ぬる人も地くりりる花
形てる風りぬ人よりとりきうぬとこそ毒

はゞかるこゝろをもつて師匠とうるを
のゝり今はなすべし又なとうてもれを今はなす
老そおとうきの事一なるへきう　順礼曰む
うハ人の師匠おもはるへき人ありてさもの
爲ぶんにこゝろうの人なきおろかくしるんん
孝曰周の文王ハ聖人なりしに太公望と
師とせり文王より太公望ハ海へうるゆへ有
師匠とせらるゝ海ハ聖人より海
うる人ハ聖人なるとそ孝をひろ人おれ
とも学にてこゝろきとして師匠にくるよ孝の
ちるへきよのうすし又人の分別ハ思ふるとおもて

はあ事とまゝ孝ら為ふるとおもうさ
かうぶこゝきはもこのりはしと親角ひとうと
ゆるしうまうあるはうるものハよになすあとおも
はさめうるはうより師よりてすくれうる我
師匠と名をつまくゝ柳いも世角ん八一きハ
角うきおくまやいうんぶうう形ちうちき比僧
法師なと師匠とうて国よ為きなく人のう
強これさ孫まきしハなきに和とりなるへ
海をうしつまきこ海人の中あもうるまか
一志信と名のつきこうるハうへきこ一の為れ
ゆうこ君子必やもくかうるすくなう

師道、を後合せもつて経なる人名れ軍法は
を師道のまれをうそてぞもつ事の用ゐ
角りとは又事をかくれる人をあるしぞ又友や
は五つまんの部とりあるくなくてうれしぬ物
まれこーもまちろう人すーとくあるもあるも
やをもーん国のめこーとりうえは見きうしぞ友と
は心我乃こうすうちめうあるきりゆきと
ますまぞ角ぐひよりきおと我なるぞ心れ
めるんこそ友おうあるもうまいのつきあいそ
の嬉んさいの主いまくるもにあるひぞまりへる
うこゆりぬるものぞもくをゆる合あひを

れちりをこそそれ必やすとそも友といひひ
てうぞ友なきゆへよ大分なる人はの事を
親程りこてうきまれはあと物もいれる
こそ使さなまれぞうけあくはまるへきもま
角あくはは人すぞしまれまもうれる
は人あれしむつうとくちつけを其人を
用ぬ事をいひてもせんすと思ひぞはむ
事のちりをいやすりとそ我のくゆるの事
をなすき其と我のくをれる人ぞよく分れ角
ゆどうんうへくゆめくうゆへよ見これ心ぞご
まるこをめすぞれよりくと大分なる人の

ぬちづれしるをみるに半こ人こもかく心の
わるき程みえくいとあられよあさ海ゆ下
下の中よ人の友こもたるべき人やの前ゆみ
るに其分面迷なるハあれこもぬつうにいや
しくて困まの花よ面ゆられうるうおくなる
もつきすゆ又すこ云系やむ半ゆこさも心
まゆ形こあハあやうしゆ心も大ここのかこぬを
ひいきべうくのんハ人のうこみあるハ色
よすきこのむ心のもこ主流の浦い色よ加ぬ
色ゆうよこれもなとせこれん人もまれ
なり又体くなまわもあこす十分よこを

形まれこもゆなわもなすりぬべき人見こうれに
こもゆ人こもこぬ人よなんこのりものやきん強先
うやこれハ世よわ面人のめきくハもこ半
知ゆ世よこの面人ゆハこれを面ゆ形ミミのあ
やうに形ゆくゆるまゆ物形ゆ世よすむひ
もなきまづき分形を人のんれをこハこう
面れ人の心代色く鏡りこけくみこんぶさ
ぢ世こもおとうきれこものみくぶさり形こうしに
椿の花ハもゆ面やうよ付ても愛もをよも
ぬるんまなるもわまくゆのるこ形さうか
こう人このむ人ゆりくこやりいゆ梅り海

き拍子もつりすんう　順礼曰。よろづ法合
す毎ふ。毎ごとんよ高さ〻へと出る人あり。せ言ん
まら忘の所毎まれ八すくなすくぢ忘れ毎ら毎ぬ八れ
ほ一毎ごんよ法ら毎とのきまー八ま海歳八
ゆ毎れ八つ毎ま人のの毎ら　答曰。これ八つ毎ま人のの毎ら
年ゆくゆへらも心八ゆうられ。芝八千人万人へ
の中ゆりすぐれる人を忘りいてぢち忘り
う毎人五人ゆるも三人の分別ま法く毎。
三人あるも二人ゆうへ法くゆとゆ年うう
ま法ゆとなき人をあつゆ。毎ごんよ毎ごりゆと
以年ゆく八新ぢつるきま法ん法合八昼

を八。よいきゆ法んと思ひ。和法合する人へ
し。昼の心八陽ゆ。くゆつ。和のん八法ゆき
より　順礼曰。人の分別八法ゆくもゆ毎が
まくゆゆ法ゆく新りうゆくゆゆ　答曰。
うづき毎ゆ八ゆまもよ法ゆ。新り毎法
分別八法の用ま三ゆ。もゆ毎ま法。
もゆゆ毎まりゆ八ゆ。ゆくゆる人ゆ毎。ゆゆ
きゆ別八ゆゆまり毎そこゆ年ゆ法。上
の分別八ゆゆくてまきゆ年とゆ毎てう毎
ま法ゆ。二ゆを法ゆくまゆちゆく。新る人きゆ法
も新りゆ。ゆゆる人毎ゆまゆきゆ。ゆゆ

申す様上とす　順礼日ぞ大なの命ハ[illegible]む
[illegible]なり。聖[illegible]より[illegible]。命[illegible]に
何[illegible]もうんぞ[illegible]く事[illegible]ん[illegible]み
もんてるぶ[illegible]ぬ[illegible]時[illegible]
ひ[illegible]す[illegible]ち[illegible]
川の[illegible]ち[illegible]
[illegible]時[illegible]思ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]石公張良[illegible]

張良[illegible]
[illegible]
[illegible]

を使うべうあるべしと太公望とぞうしも
こうとぞんしと張良とハ記とりの軍法や
いもがそうの頼朝卿ハしうしゆのん[illegible]
きくたのうこうまうさうんぐんを二重衡なとの命
となしこあいせりの乃ちぢをぢうしうハうんを
たくぬゆへなり。斯ちこ石田がたりさあいつよひ
形くしとおきあ　順礼曰。軍命を志あ
を分別こそすいつるうう。あーうな
あ形くしひとの信半ゆるくいう　答曰。大半の
もーあくいはすいつまうあうあて、ハ無つなーたを
たくうたくーこそゆへぐたすーの脉をとりうへ乃

つきたつの我たあるうりハ。あきうこに無ーうなる
半ゆくは　順礼曰。大勇小勇仁儀ハ勇血
氣の勇とうふまーのうーあをうひひはまう
ちがきくーあは　答曰。血氣の勇とやひを
むりまつうきをやひ。仁儀の勇とやひハ乃理
りつうきをやひ。小勇ハ二人のもてきを
くたつさをやひ。大勇とやしもーあ一変りりくあ天
下ともあそあ程のうもをやひ我つうかー
力をこぶハ物のうすもせひ。法人がよりまあ
いりんとうもりりこひをひさこあまうあくあ大
な為功をうすを大勇とりなり　順礼曰。

元方問
是ハ分別者ありてもの
をいふ　答曰勇とハ思ひさだめてつよきを云
人ハ三ものゝくもの〳〵ぞまうきハすゑ
をりぞまづく事ハ是をつめさること
ゆゑ勇にくらのり　順孔曰勇ハいつまゝ
いろや　答曰いつまゝもよし仁儀の勇ハ人ハ
きのぶりことをさせぬ勇ハ人ハ人ゆゑ
つゝしの入てにつゝしの大勇ハ人ハ大なるをさ
せ血氣ハ勇者ハ人ハ大なるをさ
勇しゝへもこれ勇ハ人ハ事しゝ拘束ハ
とぼうふぶとし上ぶとし下ぶとしへ

順孔曰諸国をとゝめ
一人のもゝしゝ
なり家老ハ
事を家をよ
ハ
答曰いつまゝもよ諸
ゝ
ハ
ハ
ハ

とあやうくよそのかたちもやぶれぬべし
家中をかゝみるにかくのごとくにも家老の海の
ぬやうにまもるべしとの戒いかゝあるべきよりへども
の海にまさるぬるわたりぞとしらるべし
くるなり屋といふ人のうるはしのやう
かてまもるべきまことにあるべし
かゝることなりぐ記のつのん時はうれしとかゝ屋
とせんやとう稱てう稱くしくことをみるれかうる
なりうるよろきよのうす　順孔曰は二門を
ろいてはいくもくるようくしの
はいして感とうるとぶと思ふるがうるれをお

くまとゝ沈まくくの礼すりてくはこうら
とかもんしごげ程ハ大ぐらとあるもんしぐ大
げ程ハ家老をかもんしの親ようりうくさ
のいろりはいのまかわくもそもしぐ家老ハ忘
とかくあるれかもんしぐ老てうこ思ふ屋うに
わるへし礼すりぐ感とうきぬとハ業と歌と
乃二のすりぐ人よ知りを屋り緑をあうう魚ご
とくぐ人の身上ぐとうすおとくぐしやうろもうり
そめかもんよかうぬ物うり忘れこうよ付く
りを感とかうぬと云ふなりぐしあまりさへの
まこしぐ国の大小すあうして大身なる人ぐのろ

ここのをしなれる者ともあくかき衣
よきことなるんら　順孔曰ぞうよ賜りしへ
ものしたもつのき事も法下のいかすは
きくれぬがよくいやさうよいつくのき事
とのきとのひあるんはぞれくのあるよ先
いとく形ら事なりあるきまをつのあと
ひとは時はつのき人法ぞのがくきいく
ようあへしたれも何ものもしくまよな
つまいんうたうあはあるき者のまはつの
さ、れをしとのひくはく其人のよきしのはまる
く形しひきなり先はは事はいくいひくつ

ものうまとせぞんひまぞうかあ
いん　答曰ぞうき事はの程もとりつの時
ひもせくきぞよの人はくらときは其上よ
くはきのさるを紙学合ぞそもちあへきあ
しとくはそのの業ともちひあんは先
威神もうあへしつのき先のまもりはもも
人よりもせくぞちとうそあうこの心そて法度
くまへあんは人のさくへまへうす是を威を
うきあるくいへき　順孔曰法国よかしき
御うあくは大御け形ら事あるこのへらう人
のを入法あとりる人つり是は何心よくは

んやうこのうちにこそ世こ形られめつ
見形まへ人形らもりてまこと心ねりくわ
入ときうれいをぞ強うしく人いはくいはすや。
侍の伯とうのむいかるへきまことなりぞえこそ
ん形られきさなきぞ思ねこそやいうんぞ
彼くまんだん法皮れる礼ありぞ伯の事形やや。
面ら涌ぐき事形らもの留まぐきわくもむ
もーるへーこる礼いうきめくーき昔より天
子ーるーる形ひ天下これ充もいんーる形ひ
ー事なりぞこ処まう風ぞて世ーのそーる
とうりうあこる礼なりぞ又年貢をうきぬう

ちパ僧侶をなとりこる礼ありぞこる礼など
八天下の人形とりふーるーるとそ書へきうぞ大
うきも形ぞーとりてうふーるも礼ぞ事ーる
其さ面ぞりぞこのまりうよもんもうふーるもうく
しぐれうる事をこる礼ぞ礼よかうんと思ふ心のう
ちのうきまりうやうれ事ふりうん　義曰
子細もやいうんいうきたうす　明礼曰今の代
のうちまりうる事めや　答曰思ひのれいうく
ぞりかうまりたりとこそ。形のもを思山のあまま
でも形りてのへ其外れ事ふ神ふこうきまん
考ふかうる人もなきれもきうくもふく

いるのかの長橋通りの夜もあきぬ間く
れりいるとて澄のうへ(月)もみえそうせる
くりぬ(月)れも吸ようりの月ぬ(月)ちあ
ぬくう秋のこゑうずもひぬくこの夜ものくと
うの夜きーきそ侍きしもなき夜